



2013～14 年度
国際ロータリー会長

Ron D. Burton

Weekly Report Niigata



2013～14 年度
新潟ロータリー会長

山本 正治



ロータリーを 実践し みんなに豊かな人生を

2013～14 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 3月第 4例会 (2014.3.25) No.3034

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 山本 正治会長挨拶

多分今日の会長挨拶は私たち日本のロータリアンにとって最も関心の薄い社会奉仕の領域と思います。しかしロータリー暦でこの3月は、「識字率向上月間」とされていますので、どうしてもこのテーマを避けて通れません。辛抱してお聞きいただきたいと思います。

最初にロータリークラブがなぜ識字率の問題を取り上げたかについてお話しします。国際ロータリーは1985(昭和 60)年、世界平和を構築するための前提として識字率の向上が重要と宣言したことが発端です。ここでは、国際ロータリーはなぜ識字率向上に取り組む必要があったのかを調べ、さらに私たち日本のロータリアンに何ができるか考えてみました。

まず定義から始めます。「識字」とはあまり聞き慣れない言葉ですが、日常生活で読み書きができることを意味します。正式に「識字者」とは15歳以上で読み書きができる人です。そこで「識字率」とは15歳以上の人口に占める読み書きできる人の割合です。

以前、できない人を文盲または明き盲と言いましたが、今では差別用語となり、電子辞書にも掲載されていません。「めくら判を押す」、「群盲象をなでる」などの日常生活に密着した用語も使いづらくなっています。

ユネスコの2002年調査で、世界でどれくらいの人を読み書きできないかを調べています。なんと25%です。高い国はアフガニスタン(63.7%)、バングラデシュ(58.9%)、パキスタン(58.5%)、インド(42.0%)です。また男性より女性の非識字率が高いのは世界共通です。非識字率は減少するどころか最近増加しています。日本では幸いにも0.2%に過ぎません{日本における1948(昭和23)年調査では15～64歳人口で1.7%と報告されています。現在は就学率でもって識字率を推定しており、実際の調査は行っていません。}

ちなみに日本の非識字率は江戸時代から極めて少なかったといわれています。正式な文書として1877(明治 10)年の文部省報告があります。「6歳以上で自己の姓名を記し得る者は男子89%、女子39%、全体で64%である。群馬県や岡山県では男女とも自署率が50%以上を示していたが、青森県や鹿児島県では20%未満とかなり低く、地域差が認められた。」

日本は昔から読み書きソロバンができた国民ですので、ロータリーが推進する識字率向上にそれほど関心を持ってないのが本音です。

ロータリークラブが今までやってきたことを調べてみました。国際ロータリーは1997年、途上国の10億人を対象にライトハウス(灯台)識字プロジェクトを立ち上げました。最初タイで大きな成果を収め、タイ政府が引き継ぎ国家プロジェクトにしました。その後オーストラリア、バングラデシュ、ブラジル、南アフリカ、インド、ナイジェリア、フィリピン、パプアニューギニアなどで識字率向上のための各種プロジェクトが立ち上がっています。主なプロジェクトの内容ですが、読み書きに必要なテキストやパソコンなどの教材を贈呈したり、読み書きを勉強する教室を設置したり、ボランティアで教師を派遣したりしております。

最後に、私たち日本のロータリアンは、この問題にどのような基本的考え方を持ち、どう取り組むべきかについて考えてみました。3月11日の会長挨拶で、『社会奉仕の原点は公衆トイレの建設』で紹介しましたが、途上国への公衆トイレの寄贈はほとんど学校建設を伴っております。学校を寄贈するとは“物の作り方”を教える教育の場を提供することです。ロータリークラブの基本的考え方であると思います。識字率向上に当てはめると、読み書きに必要なテキストやパソコンなどの“物自体を贈る”より、学校建設やボランティアによる教師派遣などの“教育”を提供する方がもっと重要であると思います。このような基本的考え方で、私たちはどのような貢献ができるかを前向きに考えて行きたいと思います。

(3) 退会ご挨拶

日本興亜損害保険(株)新潟支店長 鈴木 孝佳君

(4) ニコニコボックス紹介(金親 顯男副委員長9)

・鈴木 孝佳君 3年間ありがとうございました。4/1 人事異動で東京に戻ることとなりました。15年間に渡る単身赴任生活の幕引きです。少し微妙な気分ですが・・・新潟の別れを惜しみつつ、これから始まる同居生活、少し心配ですが、女房の手前ニコニコせざるを得ません。

・金親 顯男君 4月よりBSNに戻ります。5年間イタリア軒でお世話になりました。引き続き、イタリア軒を宜しくお願い致します。新社長は早めに会員になってもらいます。私は引き続きRC会員です。

(5) 米山奨学生報告

2013-14 年度米山奨学生 劉 天萍さん



(6) 本日の出席率 64.37 %

(2週間前メイク後 86.96 %)

4月1日の例会予定

新潟明訓高校インターアクトクラブ

海外研修参加報告

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata

パスワード rrcrcrc

コラム

新日鐵住金(株)

新潟支店長 龍田 晃一

私とバスケットボールの出会い

小学生時代は野球に熱中していたのに、中学ではバスケット部に入部した。理由は簡単で坊主になるのが嫌だったからだ。中学入学時の私の身長は153センチで大きい方ではあったが特に目立つ身長でも無かったが卒業時には183センチになり中学の3年間で30センチ身長が伸びた。中学3年の時には県大会で3位になり、高校でもバスケットがやりたいという気持ちになった。

中学の顧問の先生が早稲田大学の出身でゼミの教授が大学のバスケット部の部長をしていた事も有り、早稲田実業に進学することになった。これが私の人生の転機になったと言っても過言ではないと思っている。

当時の東京都は強豪校が多々あり、インターハイ出場にあと一步の所まで行くが中々出場できず、3年生の時にやっと松江インターハイに出場することが出来た。しかしながら一回戦で新潟県代表の白山高校に惜敗した。その後国体の東京都代表に選ばれ決勝まで進出したが敗れ残念ながら優勝を逃してしまった。

早稲田実業の同級生に新潟県高田の城北中学出身の仲間がいたため、高校の二年間は夏合宿を高田で行い、冬も高田に遊びに来たことが有り、スキー発祥の地でもある金谷山で初めてスキーをしたのを思い出した。

今考えれば、同級生にも新潟県出身者がいたこと、インターハイでも新潟県の白山高校に敗れたことなど、昔から私と新潟県の繋がりは有ったのかなと不思議に思う。

卒業後、早稲田大学～住友金属でもバスケットに携わっていったが、その時の話は機会があればまた寄稿させて頂きたいと思います。